

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
専門学校富士リハビリテーション大学校		平成17年3月25日	宮下 正好	〒 417-0061 (住所) 静岡県富士市伝法2527-1 (電話) 0545-55-3888																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人森島学園		平成13年3月27日	森島 康之	〒 423-0038 (住所) 静岡県浜松市浜名区貴布祢232-3 (電話) 053-585-1333																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成19(2007)年度	令和 3(2021)年度	平成27(2015)年度																													
学科の目的	豊かな人間性と発想力を兼ね備えたリハビリテーションのプロフェッショナルを育成する。 地域のリハビリテーション医療を支える理学療法士の養成を行う。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	理学療法士に必要な基礎知識や技術の習得。理学療法士国家試験受験資格。																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,585 単位時間	1,920 単位時間	585 単位時間	1,080 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率																														
160人	149人	0人	0%	5%																														
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 38人</p> <p>■就職希望者数(D) : 34人</p> <p>■就職者数(E) : 34人</p> <p>■地元就職者数(F) : 24人</p> <p>■就職率(E/D) : 100%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 71%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 89%</p> <p>■進学者数 : 0人</p> <p>■その他</p> <p>一次的な職業に就いた(4名)</p> <p>(令和 6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 総合病院、整形外科、クリニック、リハビリテーション病院、介護老人保険施設等</p>																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月: 2023/3/31 評価結果を掲載したホームページURL https://www.morishima.ac.jp/fuji/introduction/estimation/</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.morishima.ac.jp/fuji/physiotherapy/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,585 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>1,080 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,080 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>1,080 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	3,585 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,080 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,080 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,080 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	3,585 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,080 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,080 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,080 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総単位数	0 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																	
うち必修単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>10人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	3人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	13人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	3人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計	13人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

理学療法士養成は、実際の患者さんに検査・治療を行う授業(臨床実習)が不可欠なため、企業等(臨床実習施設である病院等)との連携が必要となる。教育課程の編成においては、主に臨床実習の授業内容について、企業等の意見を取り入れることを基本方針とし、教育課程編成委員会に臨床実習施設から委員を招聘している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

理学療法分野に関する企業、団体等との連携体制を確保し、授業科目の開設、その他教育課程の編成を行うために、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成委員会構成員は学校法人森島学園と企業関係者等の外部役員から成るものとする。互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。年2回の会議を開催し、学校側から議題を提案し、企業等から意見・要請を受け、それを生かした実践的かつ専門的な職業教育が主体的に実施されるよう取り組んでいる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
山中 良二	医療法人社団 紫苑会 富士いきいき病院 リハビリテーション部 部長	令和6年4月1日～令和8年3月 31日(2年)	③
渡邊 勉	公益社団法人静岡県理学療法士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月 31日(2年)	①
宮下 正好	専門学校富士リハビリテーション大学 学校長	令和6年4月1日～令和8年3月 31日(2年)	—
遠藤 進	専門学校富士リハビリテーション大学 副学校長	令和6年4月1日～令和8年3月 31日(2年)	—
植田 英則	専門学校富士リハビリテーション大学 教務部長	令和6年4月1日～令和8年3月 31日(2年)	—
市村 真樹	専門学校富士リハビリテーション大学 学生担当課長	令和6年4月1日～令和8年3月 31日(2年)	—
大沼 賢洋	専門学校富士リハビリテーション大学 理学療法学科 主任	令和6年4月1日～令和8年3月 31日(2年)	—
赤岩 龍士	専門学校富士リハビリテーション大学 理学療法学科 主任	令和6年4月1日～令和8年3月 31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年1月15日 17:00～18:00

第2回 令和7年6月25日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1. 臨床実習で学校・指導者・学生の3者をつなげるシステム活用について

①臨床実習支援システム導入にあたって施設側の問題点②活用範囲について検討し、その問題点の解消に向けて取り組み、令和4年度より本格導入とした。

2. 令和7年度新科目の授業内容の検討

施設の要望をきき、授業内容に反映させるよう準備を進めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の患者さんに検査・測定・治療を実施できることを目的とするため、全ての授業を校外で行うことを基本方針とする。校外での実習となるため、各実習地に指導教員（臨床実習指導者）の選出を依頼し、その臨床実習指導者が学生の指導を行う。臨床実習指導者および実習地は、厚生労働省の基準を満たしていることを選定の条件としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1～4年次各学年で企業等と連携して校外実習となる臨床実習を実施。年度末に臨床実習指導者会議を開催し、臨床実習の具体的進行方法を確認。学生指導法について臨床実習指導者講習会を県内リハビリ養成校と協力して開催し、臨床実習施設に参加を促し質の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	整形外科分野の中の骨折、関節の外傷、末梢神経損傷、靭帯損傷の概論、検査、治療法を学ぶ。	聖隷富士病院、静岡市立静岡病院、湖山リハビリテーション病院、西島病院、共立蒲原総合病院 ほか34施設
臨床実習Ⅱ	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	理学療法および作業療法の臨床で必要な小児疾患、主に新生児・未熟児疾患、先天異常、神経疾患を学ぶ。	介護老人保健施設きよみの里、介護老人保健施設ひろみ、デイケアさとやま、介護老人保健施設みゆきの苑、介護老人保健施設博寿園 ほか26施設
臨床実習Ⅲ	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	精神医学の中の気分障害、神経症性障害における症候学、診断、治療を学ぶ。	中東遠総合医療センター、富士整形外科病院、池辺クリニック、静岡厚生病院、池田病院 ほか29施設
臨床実習Ⅳ	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	リハ技師として必要な薬理・栄養学を学ぶ。健康維持の基礎的な考え方を学ぶ。	浜松医科大学医学部付属病院、静岡リハビリテーション病院、聖隷リハビリテーション病院、富士宮市立病院、富士いきいき病院 ほか34施設
臨床実習Ⅴ	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	医療現場の様々な職種の役割を理解し、チーム医療を学ぶ。	静岡医療センター、池田病院、清水厚生病院、静岡市立清水病院、渡辺整形外科 ほか26施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 実際の患者さんに検査・測定・治療を実施できることを目的とするため、全ての授業を校外で行うことを基本方針とする。校外での実習となるため、各実習地に指導教員(臨床実習指導者)の選出を依頼し、その臨床実習指導者が学生の指導を行う。臨床実習指導者および実習地は、厚生労働省の基準を満たしていることを選定の条件としている。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 臨床研修	連携企業等: かとう整形外科医院	
期間: 令和6年4月1日～令和7年3月31日の週1回	対象: 学科教員	
内容: 通院患者に対する理学療法		
研修名: 臨床研修	連携企業等: 富士整形外科病院	
期間: 令和6年4月1日～令和7年3月31日の週1回	対象: 学科教員	
内容: 入院・通院患者に対する理学療法		
研修名: 臨床研修	連携企業等: 富士いきいき病院	
期間: 令和6年4月1日～令和7年3月31日の週1回	対象: 学科教員	
内容: 通所・入所者に対する理学療法		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 第13回日本運動器理学療法学会学術大会	連携企業等: 日本理学療法士協会	
期間: 令和7年11月22日～23日	対象: 学科教員	
内容: 運動器理学療法におけるアウトカムを確立する		
研修名: 第11回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会	連携企業等: 日本理学療法士協会	
期間: 令和7年12月13日～14日	対象: 学科教員	
内容: 世代・分野を超えたウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法		
研修名: 第28回静岡県理学療法士学会	連携企業等: 静岡県理学療法士会	
期間: 令和7年6月22日	対象: 学科教員	
内容: 理学療法の温故知新		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 臨床研修	連携企業等: かとう整形外科医院	
期間: 令和8年4月1日～令和9年3月31日の週1回	対象: 学科教員	
内容: 通院患者に対する理学療法		
研修名: 臨床研修	連携企業等: 富士整形外科病院	
期間: 令和8年4月1日～令和9年3月31日の週1回	対象: 学科教員	
内容: 入院・通院患者に対する理学療法		
研修名: 臨床研修	連携企業等: 富士いきいき病院	
期間: 令和8年4月1日～令和9年3月31日の週1回	対象: 学科教員	
内容: 通所・入所者に対する理学療法		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 全国リハビリテーション学校協会 第38回教育研究大会・教員研修会	連携企業等: 全国リハビリテーション学校協会	
期間: 令和7年10月18日～19日	対象: 学科教員	
内容: Nextリハビリテーション教育		
研修名: 第60回日本理学療法学術研修大会	連携企業等: 日本理学療法士協会	
期間: 令和7年5月31日～6月1日	対象: 学科教員	
内容: 総合知を推進する臨床技能		
研修名: 第28回静岡県理学療法士学会	連携企業等: 静岡県理学療法士会	
期間: 令和7年6月22日	対象: 学科教員	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ・専修学校における学校評価ガイドライン及び本校学則第4条に基づき、教育、組織及び運営並びに施設および設備等の状況を明確化する。
- ・本校自己点検評価の結果を基本として、学校関係者評価委員会の中で学校評価を実施する。
- ・本校の現状について、外部へ適切に公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人財像等
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・学修成果について：卒業生の社会貢献の状況の把握、公表
- ・学生の募集と受け入れについて：PTあるいはOTに特化したオープンキャンパスの企画
- ・法令等の遵守について：ハラスメントに関する規程の作成
- ・ディプロマポリシーの具現化:カリキュラムマップの作成

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
廣瀬 真人	医療法人社団英志会 富士整形外科病院	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
佐野 正夫	医療法人社団桐林会 片桐整形外科/専門学校富士リハビリテーション大学校 同窓会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
澤田 和也	医療法人財団湖聖会 介護老人保健施設キーストーン	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
杉山 静香	専門学校富士リハビリテーション大学校後援会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	後援会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.morishima.ac.jp/fuji/introduction/estimation/>
 公表時期: 令和7年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供はホームページ、スクールガイドを利用して公表

学校関係者評価委員には学校自己評価報告書等を資料として配布

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校紹介
(2) 各学科等の教育	学科紹介
(3) 教職員	教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ・課外活動
(6) 学生の生活支援	学生サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	学費・入学金サポート・優待制度
(8) 学校の財務	情報公開(財務状況)
(9) 学校評価	情報公開(学校評価報告書)
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.morishima.ac.jp/fuji/introduction/estimation/>

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			PC演習	基本的なパソコン操作を理解し、使用することを学ぶ。	1・前	30	1	○	△		○		○		
2	○			情報統計科学	生物科学の理論の根拠としての統計学の基礎を学ぶ	1・後	30	1	○			○		○		
3	○			心理学	人間の行動や基礎にある原理を学び、こころの理解に必要な基本的知識を身につける。	1・前	30	2	○			○		○		
4	○			科学哲学	科学哲学の認識を経て、リハビリテーションに関わる者として、科学的、哲学的に自問していく素養を身につける。	1・前	30	2	○			○			○	
5	○			生活社会科学	さまざまな世代の人の生活を理解するために、家庭内での生活や社会における生活を、それぞれの世代の社会規範や背景、人生観や価値観などを学ぶ。	1・前	30	1	○			○		○		
6	○			英語 I	基本的英会話と、医療現場で使用される可能性のある簡単な英会話および必要な単語を学んでいく。	1・前	30	2	○			○			○	
7		○		英語 A	カルテに書かれている英語を理解すること、英語医療論文を読解する手段を知ること、医療現場での簡単なコミュニケーションを図れるように学ぶ。	1・後	15	1	○			○			○	
8		○		英語 B	カルテに書かれている英語を理解すること、英語医療論文を読解する手段を知ること、医療現場での簡単なコミュニケーションを図れるように学ぶ。	1・後	15	1	○			○			○	
9	○			コミュニケーション論	コミュニケーションに必要な知識について学び、様々な場面でのコミュニケーションを学ぶ。	1・前	30	2	○	△		○		○	○	
10	○			ボランティア活動論	ボランティアの定義を理解し、理学療法士として参加できる活動について学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○		
11	○			スポーツ科学	スポーツにおける動作の特徴、外傷障害について理解する。 障がい者スポーツについて理解を深める。	2・前	30	2	○			○		○		
12	○			解剖学 I	人体（神経系・感覚器系・呼吸器系・循環器系・消化器系）の構造を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	

13	○		解剖学Ⅱ	人体（運動器系）の構造を理解する。	1・後	30	1	○			○			○
14	○		解剖学実習Ⅰ	筋・骨格系の構造と機能を立体的に把握する。	1・前	30	1		○		○		○	
15	○		解剖学実習Ⅱ	骨格系、神経系、一部の臓器の構造と機能を立体的に把握する。	1・後	30	1		○		○		○	
16	○		生理学Ⅰ	人体の健常状態における構造と機能（動物機能系）について基本的な事実と法則を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○
17	○		生理学Ⅱ	人体の健常状態における構造と機能（植物機能系）について基本的な事実と法則を学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○
18	○		運動学Ⅰ	理学療法・作業療法の基礎知識として身体運動のメカニズムについて理解する。 人間の運動・動作・行為について運動学的思考ができるようにする。	1・後	30	1	○			○		○	
19	○		運動学Ⅱ	人間の運動・動作・行為について運動学的思考を学ぶ。	2・前	30	1	○			○		○	
20	○		身体運動学	各関節の制御機構と筋機能を学ぶ	3・前	15	1	○			○		○	
21	○		臨床運動学	運動学的分析や運動力学的分析について学ぶ	4・後	30	1	○			○		○	
22	○		運動生理学実習	身体の状態を運動生理学的に理解できる。	1・後	30	1		○		○		○	
23	○		人間発達学	人間の生涯にわたる変化を心の発達を中心に学ぶ。	1・後	30	1	○			○		○	
24	○		人体構造学	理学療法・作業療法を行うのに必要な解剖学・運動学・生理学の知識を習得する。	4・後	30	1	○			○		○	
25	○		病理学	病理形態学の基本となる問題点を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○
26	○		臨床心理学	臨床心理学の概要を理解し、臨床心理学的視点を学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○
27	○		内科学Ⅰ	血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌系疾患、腎・泌尿器系疾患における症候学、診断、治療を学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○

28	○		内科学Ⅱ	消化器 および 呼吸・循環器 疾患 における症候学、診断、治療を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○
29	○		神経内科学	神経症候および主な神経疾患の病態と診断、治療について学ぶ。	2・前	30	1	○			○		○
30	○		整形外科Ⅰ	整形外科分野の中の炎症性疾患、代謝・内分泌疾患の概論、検査、治療法を学ぶ。	2・前	30	1	○			○		○
31	○		整形外科Ⅱ	整形外科分野の中の骨折、関節の外傷、末梢神経損傷、靭帯損傷の概論、検査、治療法を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○
32	○		小児科学	理学療法および作業療法の臨床に必要な小児疾患、主に新生児・未熟児疾患、先天異常、神経疾患を学ぶ。	2・前	15	1	○			○		○
33	○		精神医学Ⅰ	精神医学の中の気分障害、神経症性障害における症候学、診断、治療を学ぶ。	1・後	30	1	○			○		○
34	○		精神医学Ⅱ	精神医学の中の脳器質性精神障害、統合失調症における症候学、診断、治療を学ぶ。	2・前	30	1	○			○		○
35	○		脳神経外科学	脳外科学の脳腫瘍、頭部外傷、脳血管障害を中心に症候学、診断、治療を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○
36	○		薬理・栄養と健康	リハ技師として必要な薬理・栄養学を学ぶ。健康維持の基礎的な考え方を学ぶ。	2・後	15	1	○	△		○		○
37	○		リハビリテーションと障害	理学療法・作業療法の実施に必要な臨床医学等を学ぶ。	4・後	30	1	○			○		○
38	○		リハビリテーション概論	現代の医療・福祉分野におけるリハビリテーションを理解する	1・前	30	2	○			○		○
39	○		チーム医療論	医療現場の様々な職種の役割を理解し、チーム医療を学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○
40	○		社会福祉概論	障害者の人権や生活支援のための社会保障制度や社会福祉について学ぶ	1・前	15	1	○			○		○
41	○		関連法規	障害者の生活を支援する制度を理解し、社会的リハビリテーションを学ぶ。	4・後	15	1	○			○		○
42	○		基礎理学療法Ⅰ	理学療法の基礎科学（運動器）を理解する。	1・前	30	1	○			○		○

43	○		基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の基礎科学（神経系）を理解する。	1・後	30	1	○			○	○		
44	○		基礎理学療法学実習Ⅰ	理学療法の基本技能の検査法、バイタルサインの測定を習得する。	1・前	30	1		○		○	○		
45	○		基礎理学療法学実習Ⅱ	理学療法の基本技能のバイタルサインの測定触診を習得する。	1・後	30	1		○		○	○		
46	○		理学療法研究	研究の基本的な手法を学ぶ。	4・前	30	1	○			○			○
47	○		理学療法研究演習	研究の基本的な手法を踏まえ、研究を実践する。	4・後	45	2		○		○			○
48	○		理学療法管理学	理学療法士としての職業倫理、マネジメントを学ぶ。	4・後	30	2	○			○	○		
49	○		理学療法教育学	理学療法士における教育技術を養う。	4・後	15	1	○			○	○		
50	○		機能診断学	理学療法場面で行う検査・測定を総論的に学ぶ。	1・後	30	1	○			○	○		
51	○		運動機能評価学	運動機能（関節可動域、筋力）の検査・測定方法を理解する。	2・前	30	1	○			○	○		
52	○		運動機能評価学実習	運動機能（関節可動域、筋力）の検査・測定技能を習得する。	2・前	60	2		○		○	○		
53	○		神経機能評価学	神経症候と神経学的所見の取り方を学ぶ。	2・前	30	1	○			○	○		
54	○		神経機能評価学実習	神経症候に対する検査・測定技能を習得する。	2・前	30	1		○		○	○		
55	○		画像評価学	画像（X線・MRI・エコー等）評価を学ぶ。	4・後	15	1	○			○	○		
56	○		動作分析学実習	基本動作（起き上がり、歩行等）の観察、表現方法を実習を通して学ぶ。	2・後	45	1		○		○	○		
57	○		理学療法評価学	症例の記録方法について学ぶ。	2・後	15	1	○			○	○		

58	○		理学療法評価学実習	仮想症例に対して、検査を選択・判断し実践する。	2・後	30	1		○		○		○					
59	○		総合理学療法評価学	理学療法士が実施する検査・測定方法を学ぶ。	4・後	30	1	○			○		○					
60	○		運動療法学	関節可動域運動、筋力増強運動の理論・方法を学ぶ。	2・前	30	1	○			○		○					
61	○		運動療法学実習	関節可動域運動、筋力増強運動の基本的な技能を習得する。	2・前	30	1		○		○		○					
62	○		予防理学療法学	障がいを引き起こす恐れのある疾病や老年症候群の発症予防と再発予防を学ぶ。	4・後	15	1	○			○		○					
63	○		中枢神経疾患理学療法学Ⅰ	脳血管障害片麻痺に対する理学療法を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○					
64	○		中枢神経疾患理学療法学Ⅱ	脳血管障害片麻痺に対する理学療法を学ぶ。	3・前	30	1	○			○		○					
65	○		中枢神経疾患理学療法学実習Ⅰ	脳血管障害片麻痺に対する検査・測定法を学ぶ。	2・後	30	1		○		○		○					
66	○		中枢神経疾患理学療法学実習Ⅱ	脳血管障害片麻痺に対する理学療法を学ぶ。	3・前	30	1		○		○		○					
67	○		神経・筋疾患理学療法学Ⅰ	脊髄損傷に対する理学療法を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○					
68	○		神経・筋疾患理学療法学Ⅱ	神経難病、筋疾患に対する理学療法を学ぶ。	3・前	30	1	○			○		○					
69	○		運動器疾患理学療法学Ⅰ	骨折、変形性関節症、靭帯損傷、熱傷、関節リウマチの理学療法を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○					
70	○		運動器疾患理学療法学Ⅱ	骨折、変形性関節症、靭帯損傷、熱傷、関節リウマチの理学療法を学ぶ。	3・前	30	1	○			○		○					
71	○		運動器疾患理学療法学実習Ⅰ	骨折、変形性関節症に対する基本的な治療技能を習得する。	2・後	30	1		○		○		○					
72	○		運動器疾患理学療法学実習Ⅱ	軟部組織損傷に対する基本的な治療技能を習得する。	3・前	30	1		○		○		○					

73	○		スポーツ理学療法学	スポーツ外傷に対する基本的な治療技能を習得する。	2・後	30	1	○			○	○		
74	○		小児理学療法学	正常な知的身体的発達と発達障害に対する理学療法を学ぶ。	3・後	30	1	○			○	○		
75	○		内部疾患理学療法学	呼吸器疾患、心疾患、糖尿病に対する理学療法を学ぶ。	3・後	30	1	○			○	○	○	
76	○		内部疾患理学療法学実習	呼吸器疾患、心疾患、糖尿病に対する基本的な検査・治療技術を学ぶ。	3・後	30	1		○		○	○	○	
77	○		日常生活活動学	日常生活活動の構造と評価方法を学ぶ。	2・前	30	1	○			○	○		
78	○		日常生活活動学実習	基本動作の構造を理解し、基本的な介助技能を習得する。	2・前	30	1		○		○	○		
79	○		物理療法学	温熱療法、電気刺激療法、牽引療法、寒冷療法の理論を学ぶ。	3・前	30	1	○			○	○		
80	○		物理療法学実習	温熱療法、電気刺激療法、牽引療法、寒冷療法の方法を習得する。	3・前	30	1		○		○	○	○	
81	○		装具学	下肢装具、上肢装具、体幹装具の構造と適応疾患を学ぶ。	3・前	30	1	○			○	○	○	
82	○		義肢学	義足（下腿、大腿）の構造と特徴を学ぶ。	3・後	30	1	○			○	○		
83	○		症例検討Ⅰ	整形外科疾患、中枢神経疾患に対するケーススタディの方法を学ぶ。	3・後	15	1	○			○	○		
84	○		症例検討Ⅱ	整形外科疾患、中枢神経疾患をパワーポイントを利用して発表する方法を学ぶ。	4・前	15	1	○			○	○		
85	○		臨床理学療法学	各種疾患に対し、検査・測定・治療法方法を選択、判断する能力を養成する。	4・後	60	2	○			○	○		
86	○		理学療法技術論	応用的な理学療法技術（徒手療法 など）を体験し、理解する。	4・後	30	1		○		○		○	
87	○		理学療法セミナー	最新の理学療法のトピックを学ぶ。	4・後	15	1	○			○		○	

88	○		地域リハビリテーション学	地域社会における理学療法士の役割を理解する。	2・後	30	1	○			○	○		
89	○		生活環境論Ⅰ	障害者に対応した住宅改修に必要な関連法規を学ぶ。	3・前	15	1	○			○	○		
90	○		生活環境論Ⅱ	障害者に対応した住宅改修を学ぶ。	4・前	15	1	○			○	○		
91	○		臨床実習Ⅰ	医療従事者として適切な行動を体験し、理解する。関連企業（実習施設）で5日間行う。	1・後	45	1				○	○	○	○
92	○		臨床実習Ⅱ	医療従事者として適切な行動を体験し、理解する。関連企業（通所・訪問等実習施設）で5日間行う。	2・後	45	1				○	○	○	○
93	○		臨床実習Ⅲ	基本的な検査・測定・介助技能を習得する。関連企業（実習施設）で17日間行う。	3・前	180	4				○	○	○	○
94	○		臨床実習Ⅳ	基本的な治療技術を習得する。関連企業（実習施設）で40日間行う。	3・後	405	9				○	○	○	○
95	○		臨床実習Ⅴ	基本的な治療技術を習得する。関連企業（実習施設）で40日間行う。	4・前	405	9				○	○	○	○
合計						95	科目	124 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：在籍学科で開設している科目をすべて合格していること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：学年ごとに開設している必修科目・選択科目を4ヶ年に分けて履修する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。